

理事長あいさつ

祝 創立65周年



理事長 小原 敏

令和六年二月十五日、本校はめでたく学校創立六十五周年の節目の年を無事迎える事ができました。日頃より同窓会や保護者会はじめ、多くの皆様にご理解ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

創立六十周年以降は、新型の感染症等の流行、また自然災害も頻発しています。こうした厳しい時代だからこそ、心身共にたくましく育て上げる東稜の教育力を発揮する時です。充実したカリキュラムの下に多様な進路実現と多くの部活動が全国大会、東北大会に出場しています。今年度は、本校はさらなる少子化の到来に備え、本校のスクールアイデンティティにも掲げているグローバル教育の推進として、外国からの留学生や外国籍の生徒も多く受け入れていきます。また、地元福島と一緒に

そうとの思いの下に、プロサッカーチーム「福島ユナイテッドFC」を応援しています。二年前に発足したU18ユースチームですが、厳しいセレクションを突破し合格した県内外の一期生十八名中十一名、二期生十四名中十名合わせて二十一名が本校に在籍しています。放課後になるとクラブチームの練習へ出向いています。将来プロを目指すという高い志をもった生徒の影響は他の部活動に励む部員へも好影響となっています。今年度は運動部、文化部を合わせて八つの部活動が全国大会へ出場しました。中でも男女バスケットボール部は今年度福島県勢史上初の男女そろっての二大会全国大会出場、今秋から始まったバスケットボールの東北ブロックトップリーグでも

男女ダブル優勝を成し遂げるなど躍進を続けております。また卓球部は全日本卓球大会に六年連続個人で多くの選手が出場、他には馬術部、陸上競技部、ラグビー部(県選抜選手個人)、パソコン部、写真部です。こうした功績はこれまでの卒業生の皆さんの努力の結晶です。

この度、私も兼務している校長職十年を経て、併せて七十歳、古希の節目の年を迎えました。この節目の年を契機に、今後どんなに厳しい時代が来ようとも、建学の精神の具現化を目指し、教職員一同心を一つにして、未来永劫に存続できる磐石な学園学校にすることを誓い申し上げます。今後とも変わらぬ皆様のご協力ご支援を切にお願いいたします。



東稜

vol.2



建学の精神

学校法人緑が丘学園 創設者
菅野慶助

教育指針

学校法人東稜学園 創設者
小原満夫

真心とつて人に接し
人の立場を考へて行動できる
明かろく役立つ人間

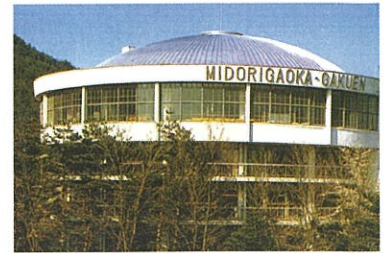
克己 自信 挑戦

沿革概要

- 昭和16. 2.15 ● 福島高等洋裁学院設置許可(創立記念日)、菅野八千代初代院長就任
- 昭和16. 4. 1 ● 福島高等洋裁学院開校
- 昭和24. 9. ● 文部大臣認可により財団法人福島高等洋裁学院となる
- 菅野慶助初代理事長就任
- 昭和33. 5.24 ● 学校法人福島高等洋裁学院理事会並びに評議員会において、高等学校の併設とこれに伴う学校法人の組織変更を決議
- 昭和34. 3. 9 ● 学校法人緑が丘学園緑が丘高等学校(修業年限3年、普通科・商業科)設置認可
- 菅野慶助初代理事長校長就任
- 昭和34. 4. 1 ● 開校(普通科131名・商業科40名)
- 昭和34.10.17 ● 創立記念式典並びに校歌・校旗披露式挙
- 昭和37. 3. 2 ● 第1回卒業式挙
- 昭和38. 4.20 ● 第1北校舎8教室竣工
- 昭和39. 6.30 ● 円型校舎18教室並びに講堂兼体育館竣工
- 昭和39.10.16 ● 校舎落成式挙
- 昭和41. 1.25 ● 法人名を福島緑が丘学園と改称
- 昭和43. 4. 1 ● 食物科設置
- 昭和44. 4. 1 ● 衛生看護科設置。准看護婦学校指定(文部省)
- 食物科、調理師養成施設指定(厚生省)
- 昭和47. 2.15 ● 第2北校舎竣工
- 昭和47. 4. 1 ● 衛生看護専攻科設置
- 昭和47.12.26 ● 福寿荘竣工(宿舎)
- 昭和50. 5.15 ● グラウンド拡張工事竣工
- 昭和51. 4. 1 ● 普通科Ⅲ型(進学コース)設置
- 昭和55. 3.10 ● 集団調理実習室竣工
- 昭和63. 4. 8 ● 本校舎改築竣工
- 昭和63. 6.29 ● 高校創立30周年並びに校舎改築工事落成記念式典挙
- 平成元. 3.31 ● 本校舎前外燈2基設置(寄贈同窓会)
- 平成 2. 4. 1 ● 安藤正弘2代校長就任
- 平成 3. 8.31 ● 菅野英孝2代理事長就任
- 平成 4. 4. 1 ● 法人名を学校法人福島学院と改称、新制服を制定
- 平成 6. 4. 1 ● 新入生より新教育課程を適用、学校隔週5日制実施
- 平成 7. 4. 1 ● 小原満夫3代校長就任
- 平成 8. 4. 1 ● 普通科に進学養成コース・総合コースを設置
- 平成 8. 9.27 ● 学校法人東稜学園設置認可、小原満夫初代理事長就任
- 平成 9. 1.28 ● 食物科、調理師養成施設指定(厚生省)
- 平成 9. 3.27 ● 体育館建設・グラウンド拡張・駐輪場竣工
- 平成 9. 4. 1 ● 福島東稜高等学校に改称
- 商業科をビジネス情報科に改称、食物科を食物文化科に改称
- 平成 9. 4.23 ● 新法人設立・新体育館落成記念式典及び祝賀会挙
- 平成10. 4. 1 ● 新制服の制定(コシノヒロコデザイン)
- 平成10.10.23 ● 高校創立40周年記念式典・記念講演会を挙
- 平成10.10.31 ● 廃棄物置場・駐車場拡張竣工
- 平成11. 4. 1 ● 男女共学化(進学養成コース・食物文化科・衛生看護科)
- 平成13. 7.19 ● 本校舎冷暖房取付竣工
- 平成14. 4. 1 ● 学校週5日制実施
- 看護学校指定(文部科学省)、5年制による看護師養成を開始、衛生看護科を看護科に、衛生看護専攻科を看護専攻科に改称
- 普通科進学養成コースを進学コースに改称し、コース別入試を実施
- 男女共学化を推進(ビジネス情報科、看護専攻科)
- 平成15. 4. 1 ● 男女共学化の完了
- 平成17. 6.10 ● 冷暖房設備竣工(各教室)
- 平成18. 4.21 ● 寄宿舎(静稜庵)竣工
- 平成19. 4. 1 ● 小原満夫学園長就任、橘浩二郎4代校長就任
- 平成20.12.26 ● 太陽光発電システム設置(本校舎屋上)
- 平成21. 1.17 ● 生徒会エコスクール宣言
- 平成21. 2.14 ● 創立50周年記念式典挙(福島県文化センター)・新校歌の制定
- 平成21. 4. 1 ● 寄宿舎(北斗)竣工



▲勲三等瑞宝章受章(昭和54年4月) 菅野慶助先生、菅野八千代先生



▲円型校舎



▲旭日小綬章受賞(平成20年11月) 小原満夫先生



▲40周年 萌葱祭 ビッグアート

- 平成22. 4. 1 ● 新制服の制定(コシノユマデザイン)
- 平成23. 4. 1 ● 普通科進学コース募集を停止、2年次より進学コース・総合コースを編成
- 平成23. 6.23 ● グラウンド表土全面放射性汚染土除染完了・福寿荘裏駐車場竣工
- 平成23. 8.22 ● 新南校舎竣工・きらり☆東稜天文台竣工
- 平成24. 2.28 ● 円型校舎耐震補強及びリフォーム工事竣工・クールシステム設置(円型大ホール)
- 平成24. 4. 1 ● 小原 敏5代校長就任
- 平成25. 6.22 ● 福島市ふるさと除染による校地校舎全面放射性汚染物質除染完了
- 平成25. 6.28 ● 固定式大型プロジェクターシステム設置(視聴覚室・大会議室)
- 平成25.12.23 ● 文部科学大臣杯争奪第20回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会女子の部優勝(日本一)
- 平成25. 8.30 ● 本校科学部新天体発見NASAより仮符号2013PV21認証
- 平成26. 2.15 ● 創立55周年記念祝宴並びに小原満夫理事長卒寿の祝挙
- 平成26. 3.23 ● 第17回高等学校ボウリング選手権大会女子チーム優勝(日本一)
- 平成26. 3.28 ● 体育館アリーナLED照明設備設置
- 平成27. 4. 1 ● 小原敏学校法人東稜学園2代理事長就任
- ビジネス情報科を募集停止
- 普通科を特別進学コース・スポーツ健康コース、キャリアデザインコースの3コースに改編
- 平成27. 9.12 ● 高円宮妃久子様お成り(ご来校)
- 平成27.12. ● 円型校舎周囲森林放射性物質除染完了
- 平成29. 3.27 ● 第1北校舎竣工
- 平成29. 4.16 ● 小原満夫前理事長「お別れの会」実施
- 平成29. 6. ● 校地周辺森林全面放射性物質除染完了
- 平成30.11. 9 ● 創立60周年記念式典挙(とうほう・みんなの文化センター)
- 記念講演会「笑いの効果」 福島県立医大 大平 哲也先生
- 平成31. 4. ● シンガーソングライターMANAMIさん作詞作曲の学校イメージソング「夢への助走」完成
- 令和 3. 3. 1 ● 福島東稜天神寮竣工
- 令和 4. 3.15 ● 円型校舎トイレ改修
- 令和 4. 4. 1 ● 普通科特別進学コースを募集停止、普通科をアクティブラーナーズコース、スポーツ健康コース、キャリアデザインコースの3コースに改編
- 令和 5. 2.15 ● 創立65年
- 令和 5. 3.27 ● 体育館トイレ改修
- 令和 5. 4. 1 ● 新制服の制定
- 令和 5. 8.17 ● 体育館アリーナ公式バスケットボールコート及び移動式バスケットゴール設置

保護者会

創立六十五周年を祝して



保護者会会長
小原 千鶴

福島東稜高等学校創立六十五周年を迎えられる事を、保護者を代表致しまして心よりお祝い申し上げます。
本校の掲げる「真心教育」は先生方、保護者、地域の皆様が手を取り合ってこそ成しえるものだと思っております。

現代はインターネット等の通信技術が発展し、世界中の人と繋がるのが安易になり、たくさん情報を知る便利な時代となりました。一方で、昔ながらの隣近所との付き合い、人と人との心の通う付き合いが薄れ、様々な問題が起こる世の中でもあります。
そんな世の中で、生徒一人一人の健全な育成を図る教育の実践に努める先生方には、保護者としても大変心強く、不断の努力と情熱に対し深く御礼を申し上げます。
思春期の人間形成の最も大事な時に最終進路選択を迎える生徒も多くおり、辛

く寂しい気持ちを抱える生徒も少なくありません。
子供達は周りの大人達から暖かく見守られている安心感と緊張感の中で、健全に育っていくものと言われております。

六十五周年という節目に巡り合う事は有難いご縁でもあります。
これを機縁として私達保護者も力を合わせ、先生方、地域の皆様と共に、子供達の輝かしい未来の為に努力していく所存です。

今後共、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、福島東稜高等学校の更なる発展と子供達の輝かしい未来を祈念しご挨拶の言葉とさせていただきます。



令和五年度

活動報告

※十二月末日現在

◆四月十一日(火)

令和五年度 入学式
保護者会入会式

◆四月二十九日(土)

令和五年度 保護者会総会

◆五月二十五日(木)

令和五年度 進路講演会・座談会
◎演題
「保護者が今知っておきたい進路の話」
◎講師
A YA キャリアコンサルタント
大場 綾氏

◆六月十七日(土)

第二回 常任委員会

◆九月九日(土)

第三回 常任委員会

◆十一月二十五日(土)

第四回 常任委員会



福島県私学振興大会

令和五年十一月二十二日(水)に郡山市にて、第四十八回福島県私学振興大会が開催されました。

本校より保護者会会長、副会長、クラス役員の保護者の皆様、担当教員あわせて十五名で参加して参りました。

開会、主催者挨拶に続き、「要望議案説明」が各会(専修学校保護者会連絡協議会、私立中等高等学校保護者会、私立幼稚園認定こども園PTA連合会)よりありました。

「大会決議採択」では、満場一致の盛大な拍手で承認され、皆様からご提出いただいた「請願書」と共に会を代表して大谷宏明氏より福島県知事(内堀雅

雄様)へお渡しし、受理されました。

その後、福島県知事、郡山市長、国会議員の方々より「祝辞」をいただき、記念講演として講師の玄侑宗久先生より、演題「目的という桎梏」を拝聴しました。

最後に、皆様にご協力頂きました請願署名は「三三四九筆」となりました。
ご協力ありがとうございました。



令和五年度 保護者会環境美化活動

十二月九日(土)保護者会主催環境委員会による「環境美化活動」が行われました。

保護者と教職員が一緒に活動し、「安心」「安全」より良い学校環境をつくることを目的としていま

す。

当日は約七十名の保護者、教職員、部活動の生徒が集まり、一時間程度の落ち葉拾いを行いました。部活動の生徒のみさんも参加してくれました。寒い中の活動でしたが無事活動を終え、きれいになった学校周辺を見て、皆さん心が温まったようでした。

ご参加頂いた皆様、本当にお疲れ様でした。心より感謝申し上げます。



部活動後援会

創立六十五周年を祝して



部活動後援会会長
本間 祐子

福島東稜高等学校の創立六十五周年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げる喜びと誇りを感じます。六十五年という歴史の中で、私たちの部活動は数々の試練と挫折に立ち向かいながら、着実に成長してきました。これは、熱心な部員、献身的な指導者、そして皆様からの絶え間ない支援に支えられて成し遂げられたものです。

部活動は様々な分野で活躍する若者たちにとって大きな成長の機会です。彼らは努力と情熱をもって目標に向かい、困難を克服し続けています。部活動後援会は、この重要な活動の支えとなり、部員たちの未来を切り拓いていく力となります。皆様の熱意と協力があれば、より素晴らしい未来を築くことができるでしょう。

創立六十五周年の節目を迎え、過去の栄光に感謝し、未来への展望を高めています。皆様のご協力と支援を通じて、部活動は一層の発展を遂げ、若者たちの可能性を最大限に引き出していく覚悟です。この特別な瞬間に、部活動後援会の一員として、皆様に心からの感謝を申し上げ、共に未来を切り拓いていくことを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いたします。



令和五年度 活動報告

※十二月末日現在

◆四月十一日(火)
令和五年度 入学式
部活動後援会入会式

◆四月十七日(月)
監査会 令和四年度
決算について
常任理事会(新旧役員会)

◆四月二十九日(土)
令和五年度 部活動
後援会総会

◆七月
全国大会出場に伴う
激励懸垂幕の掲出
(JR福島駅西口)

◆十一月
職員玄関並びに文化
センター階段下へ全
国大会・東北大会出
場記録横断幕を掲示

◆十二月
全国大会出場に伴う
激励懸垂幕の掲出
(JR福島駅西口)



全国大会を終えて

女子バスケットボール部



- 大会名 令和5年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技
- 期 間 令和5年7月24日~7月30日
- 会 場 北海きたえーる(北海道札幌市)
- 結 果 1回戦敗退

全国大会に出場して

普通科3年2組 柴田 美奈

今大会で4度目の全国大会でしたが、全国は意地と意地のぶつかり合いだと感じました。諦めない気持ちや粘り強さなどメンタル面を見直し、成長できる機会だったと思います。



男子バスケットボール部



- 大会名 令和5年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技
- 期 間 令和5年7月24日(月)~7月30日(日)
- 会 場 北海きたえーる(北海道札幌市)
- 結 果 2回戦敗退

全国大会に出場して

普通科3年2組 猪狩 陽

男子バスケットボール部は、第4シードで2回戦から出場しました。結果は負けてしまいましたが、チームの課題が見つかり、その後の練習に一丸となって取り組むことができました。



馬術部



- 大会名 第57回全日本高等学校馬術競技大会(団体戦)
- 期 間 令和5年7月24日(月)~7月26日(水)
- 会 場 静岡県御殿場市:御殿場市・馬術スポーツセンター
- 結 果 ブロック第3位により、初戦敗退
出場 普通科3年5組 後藤 結基、
看護科2年1組 中村 秋、永峯 聖正
* * *
- 大会名 第34回全日本高等学校馬術選手権大会(個人戦)
- 期 間 令和5年8月9日(水)~8月10日(木)
- 会 場 北海道苫小牧市:ノーザンホースパーク
- 結 果 3回戦敗退により全国ベスト12
出場 看護科2年1組 永峯 聖正

男子卓球部



- 大会名 令和5年度全国高等学校総合体育大会卓球競技
- 期 間 令和5年8月8日(火)~8月13日(日)
- 会 場 北海道 北ガスアリーナ札幌46
- 結 果 ◎男子ダブルス
普通科3年2組 橋本 龍馬・普通科2年1組 佐藤 央洋
体調不良により1回戦棄権
普通科1年2組 八高 修輔・普通科1年2組 鈴木 空羽琉
1回戦敗退
◎男子シングルス
普通科3年2組 橋本 龍馬 1回戦敗退
普通科3年2組 菅原 光太 2回戦敗退
普通科1年2組 鈴木 空羽琉 2回戦敗退

陸上競技部

- 大会名 令和5年度全国高等学校総合体育大会陸上競技
兼 第76回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
- 期 間 令和5年8月3日(水)~6日(日)
- 会 場 北海道札幌市厚別公園競技場
- 結 果 予選敗退
男子ハンマー投げ
普通科3年5組 遠藤 清寿 46m33 (予選2組)
* * *
- 大会名 第17回U18陸上競技大会
- 期 間 令和5年10月20日(金)~22日(日)
- 会 場 愛媛県総合運動公園陸上競技場
- 結 果 予選敗退
U18男子ハンマー投げ
普通科3年5組 遠藤 清寿 NM

パソコン部



- 大会名 令和5年度第70回全国高等学校ワープロ競技大会
- 期 間 令和5年8月3日(木)
- 会 場 東京都 東京都産業貿易センター
台東館・台東区区民会館
- 結 果 出場 普通科3年3組 後藤 瞬

写真部



- 大会名 第47回全国高等学校総合文化祭2023かごしま総文
写真部門
- 期 間 展示:令和5年7月29日(土)~8月2日(水)・鹿児島市
- 会 場 かがしま県民交流センター
- 結 果 タイトル「朝霧の少女」
普通科3年5組 佐藤 颯斗 展示発表

ラグビーフットボール部



- 大会名 KOBELCO CUP2023 第19回全国高等学校合同大会
- 期 間 令和5年7月27日(木)~30日(日)
- 会 場 長野県菅平高原サニアパーク
- 結 果 予選リーグ2位 決勝トーナメント2位 全体5位
出場 普通科3年5組 小松 叶人

同窓会

創立六十五周年を祝して



同窓会会長
鈴木 優子

福島東稜高等学校創立六十五周年誠におめでとうございます。

令和四年度より福島東稜高等学校同窓会会長に就任いたしました。私が入学した昭和六十二年四月、三十六年前に建てられた木造二階建ての本校舎が取り壊され、新たな校舎の建て替え工事が行われておりました。

また、翌々年には昭和天皇陛下がご崩御(昭和六十四年一月七日)され、新天皇陛下に明仁陛下がご即位されました。そして、翌日には元号が「平成」に変わりましたが、平成に慣れるまで時間が掛かったことを今でも覚えております。

卒業後の平成九年、緑が丘高等学校を福島東稜高等学校に校名が変更され、教育指針に「克己・自信・挑戦」が掲げられました。生徒の皆さんは今日まで、日々勉強、部活動に励み素晴らしい成果を残されております。また、コロナ禍で学校行事

の中止や延期など厳しい環境下でも、生徒の皆さんが目標を見失うことなく活躍をされてきたことは大変誇らしく思います。

同窓会の会員数は現在、一万六千九百二十五名になります。同窓会は会員の相互の親睦を図るとともに教養を高め、母校発展と地方文化の向上に寄与することを目的とし、同窓会会員の皆様、学校関係の皆様のご協力のもと同窓会活動を行っております。また、学校行事等にも参加協賛をさせていただいております。これからも、生徒たちの益々の活躍を楽しみに応援して参りたいと思います。

今後とも様々な分野で活躍される生徒達への応援と、母校発展にご理解とご協力くださいますように宜しくお願い致します。



令和五年度

活動報告

※十二月末日現在

◆四月十一日(火)
令和五年度 入学式

◆七月一日(土)
第一回 同窓会役員会

◆七月十四日(金)

全国高等学校体育大会激励金贈呈
※男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、卓球、馬術部、陸上部、ラグビー部、パソコン部

◆十一月二十九日(水)
看護専攻科(一年) 戴帽式祝花贈呈

◆十二月十五日(金)
全国大会出場部へ激励金贈呈
※男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、卓球部



三春滝桜 孫桜植樹から十二年

平成二十三年十一月十五日、晴れ渡る秋晴れの下、福島東稜高等学校同窓会設立五十周年記念植樹祭を開催し、三春滝桜の孫桜(三春滝桜実生苗)を本校南校舎前に記念植樹させていただきました。植樹祭では、安齋久子元同窓会長が「美しさが増していくシダレザクラのように、母校も益々発展してほしい」と願いを込められたご挨拶をされ、その後、小原満夫前理事長らによって盛土が行われました。

あれから十二年、植樹した桜は、春の温もりとパワーを皆さまにお裾分けするかのよう今年度も綺麗に咲き誇りました。これからも、つぼみが膨らみ桜吹雪になるまで、都度、見ごたえのある風景が、心を癒し、温かく見守ってくれることと思います。



現在の桜(令和5年4月)

現在、生徒の皆さんのご活躍が目覚ましく、テレビや新聞等で目にする機会が増え、素晴らしい成果を挙げてくれる皆さんに同窓生として喜びを感じておりますし、孫桜のように美しく輝き続ける皆さんを誇りに思います。同窓会は躍進する生徒の皆さんをこれからも応援(サポート)して参ります。

間もなく春がやってきます。どうぞ、三春滝桜の孫桜をご覧になって、春の訪れを楽しんでいただきたいと思います。



育 稜 会

創立六十五周年を祝して



育稜会会長
小松 良行
(平成19・20年度保護者会長)

福島東稜高等学校の創立六十五周年を祝し、育稜会を代表し心よりお祝い申し上げます。

さて、本校の前身は、昭和十六年開校の福島高等洋裁学院として産声を上げ、昭和三十四年に福島市のシンボル信夫山の公園地区であるこの地に、幾多の困難を乗り越えて学校法人緑が丘学園緑が丘高等学校として創設されました。高度成長時代には円型校舎を建築し、当時は羨望の的であったと記憶しております。

平成九年には、現在の福島東稜高等学校に校名も新たに、小原満夫前理事長のもとでは「創造と個性を生かし、豊かな人間性を育てる」と、時代が求める人間教育と文武両道の精神で力強い学校運営が進められてきました。

このことは、現在の小原敏理事長にも受け継がれ、今日の四年制大学進学者の向上や医療現場で活躍する看護師など、社会を支え地域で活躍する人材を育成し、幾度も全国

大会に出場するバスケットボール部等の躍進、そして何よりも笑顔で心健やかに成長する生徒達の姿に現れております。これまでの歴史と伝統に敬意と、心血を注ぎご指導にあたられた諸先生方に感謝の意を表する次第です。

私は、今から十五年前に本校保護者会長を務め、創立五十周年にも携わるなどご縁も深く、当時の橋浩二校長の呼びかけにより、保護者会役員や退職職員の有志による後援組織として平成二十八年一月に育稜会を発足したのです。

時代が移り、人々の暮らしは変わろうとも「真心をもつて人に接し、人の立場を考えて行動できる明るく役立つ人間」と刻まれた建学の精神は、人間形成の基礎であり、美しい日本社会を築くための永遠の哲学であろうと思えます。厳しい社会環境の中にあっても、本校に関わる全ての人たちが、この明德を心に刻み、日本中そして世界に羽ばたいて活躍されんことを願ってやみません。

結びに、福島東稜高等学校の益々のご発展と教職員のみならず、生徒諸君のご健勝を心よりお祈り申し上げます。言葉と致します。

稜 友 会

創立六十五周年を祝して



稜友会会長
井上 久三雄

福島東稜高等学校の創立六十五周年を心からお祝い申し上げます。

私が学校とご縁を持ったのは四十年以上も前の事になります。当時はまだ緑が丘高等学校の時、故菅野慶助校長先生に人を介してその時代ではまだ珍しい据置式上腕血圧計をお求めいただき先生の健康管理に日々役立つ訳でしたが、製品として今一つ未熟な面もあり

幾度も製品交換をしながら校長室に通いました。そんな私の姿を気の毒と思ったかそれとも懸命に対応していた私に少し心動かされたのか不明ですが、そこから長くお付き合いが続いております。仕事は生徒の少ない放課後になり当時はまだ木造校舎で歩くと廊下が床鳴りし風の強い日などは何とも異様な音に少し怖さも加わり用務員さんと誰もいない教室で仕事をしたことが今では懐かしく思い出されます。平成に入り故小原満夫校長先生そして現在の小原敏校長先生に至る間、最初に校名が福島東稜高等

学校と変更されその後に新校舎建設、社会環境に沿った学科の開設、男女共学化、部活動の強化等ダイナミックに革新されてまいりました。その過程の中で、学内で仕事に従事している様々な業種の会社が学校に賛同し協力を申し出、発足したのが稜友会です。現在三十一名の会員で微力ながら活動しております。昔の木造校舎から今の設備の整った新しい校舎をながめると隔世の感があります。そこで学ぶ生徒の皆さんにはこれから歩む人生の中で幾度も来ないかもしれない貴重な今の珠玉の時間を大切に過ごしていただきたいと思います。本校応援団として私たちはそれを願いながらエールを送り続けます。

留學生へのクリスマスプレゼントを贈呈しました！



稜友会は、会の行事の際に募金を募り留学生への支援を行っております。令和五年十二月十五日には、井上会長より三名の留学生に対し、「クリスマスプレゼント」の贈呈を行いました。また「稜友会」は、

本校の教職員と取引業者とで組織し、お互いの親睦を図ることを目的とした会です。今後活動も考えています。

本校の教職員と取引業者とで組織し、お互いの親睦を図ることを目的とした会です。今後活動も考えています。

本校の教職員と取引業者とで組織し、お互いの親睦を図ることを目的とした会です。今後活動も考えています。

寄付のお願い

本学園は、五年前に創立六十周年の節目を迎え、築五十年を経過し老朽化している第二北校舎の改修に向けて寄付の募集を開始いたしました。皆様から多大なるご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。学生・生徒の安全な環境を確保すべく、引き続きご寄付のお願いを申し上げます。なお、詳しくは本学園のホームページを参照願います。



